
やさしい悪魔

矛矢樹佐屋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

やさしい悪魔

【Nコード】

N4744L

【作者名】

矛矢樹佐屋

【あらすじ】

妄想のひとかけら。続くのか、短詩かわかりません。

目の前に移るのは白い光と暗い闇
私はふと手を見た

そこには血まみれの手があった

視界の下のほうに足が見える

右を見ると私の大切な友達の一人が血まみれで倒れていた
金色になびく髪と白い肌にも赤い色が混じるように流れている

左を見ると私の大切な友達の一人が血まみれで倒れていた
薄い青紫の髪と褐色の肌に赤い色が染まっっていく

二人とも私を好きだと言ってくれた

私の大切な人

どちらも選べないくらい大切な人

すると闇が私に声をかけた

「ここで一つ魂を持ち帰ればならない。お前はどちらを手放す？」
「金色の髪の男か、青色の髪の男か、選択は二つ。どちらを選びますか？」

静かに響く低い声

どうして私が選ぶの？

・私そんなの、選べないよ

「選択肢はもう一つあるわ。」

「・・・？」

「私を連れて行きなさい。魂が一つなくなればよいのでしょうか？」

「・・・お前は無条件に生きる権利があるのだぞ。なぜここで朽ちる必要がある？」

「どちらを選んでも、後悔する。そんな生き方私は嫌いな。生きてる意味ないわ」

「・・・」

白い光が彼らをやさしく包む

「あなたの意思、しかと受け止めましょう。」

黒い闇が私を犯していく

とろみのある沼の中に溶けていくような不思議な感覚
不安もなく私は身を預けた。

あの日

死ぬ予定ではなかった魂を持ち帰ってきて以来、
黄泉の国でこの少女は目覚めることがなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4744/>

やさしい悪魔

2011年10月4日20時38分発行